

1-2-2-1. 野外カウンセリングと野外カウンセラー

ここでは、野外における集団教育活動等において、活動主体者が自主的・自立的に活動できるよう支援・助言・協力することを野外カウンセリングと呼んでいます。（※「野外」を「自然生活」に変更することを検討中）

またそうした援助者を「野外カウンセラー」呼んでいます。キャンプ中は日本語で相談員と呼びます。みなさんは、相談員としてキャンプに参加することになります。

1-2-2-2. 野外カウンセラーの期待像（野外カウンセラーに求められる姿）

●普段は支援者・援助者： こどもたちと関わる「おとな」の呼称には「先生」「リーダー」「指導員」などがあり、それぞれ、その目的によって使い分けられています。しかし、「相談員」はそのどれとも違っていています。前者は、程度の濃淡はありますが、全て参加者を超越した一階級上の立場に立って学習者を導く役職といえます。相談員とは、こどもたちと一緒に過ごすキャンプの仲間であり、主役であるこどもたちを支えていく大人の仲間です。こどもたちだけではうまくできない時、必要な手助けをしてあげられる大人の友人です。こどもたちは年齢を重ねるとともに認知・行為・情動の学習領域の発達をとげていきます。全員が同じテンポで同じように発達するのではなく、一人ひとり個性をもって発達していきます。その一様性と多様性の両方を理解して個人や集団の支援・援助を行っていきます。

●重大問題発生時は指導者： ただし、相談員は時に、『相談員』とは異なった立場にたたなければならないこともあります。例えば、危険に接する時、あるいは対人トラブルが発生した時など、カウンセラーは、必要に応じ、『リーダー』・『判定者』・『指導者』としての役割を果たすべき時があります。特に安全や倫理に関わる時には、毅然とした指導性や威厳を持つことが必要になります。しかしこうした時にも、長期的に、指導的、権威的態度を取り続けることは望ましくありません。超越的な役割が不必要になったら、それを終えて、元の『相談員』に戻ります。

●多面性をもった役割： 一緒に過ごす仲間として横の関係性を保ちつつ、時に必要な時は、指導者としての役割を担うことがある、このように野外カウンセラーは多面的な役割を果たします。

1-2-2-3. おとな同士の『相談員』の役割も

相談員が、問題にぶつかった時、解決策は1つではありません。キャンプを有意義なものにするには、こどもだけでなく大人も含めて関係者がよく話し合っ解決していくことが大切です。意見を出したり、経験者や年配者にアドバイスをもらったりすることで、不安を軽くし、楽しいキャンプになるよう自分や他人を調整していくことができます。相談員は、こどもに対して相談する役割をもっているだけではなく、大人同士でも互いに相談し合う役割ももっているのです。

1-2-2-4. キャンプネームと対等な関係性

このキャンプでは大人も子どももニックネームで呼び合っています。キャンプに参加する仲間として必要以上の上下関係が生まれるのを避け、立場や年齢を越えた仲間作りをするためです。

でも、これはタメ語や命令語で話し合うことではありません。丁寧語～日常語を使い、互いを気軽にニックネームで呼び合いながら、相互に尊敬し合う関係をつくっていくことが理想的です。

名前を覚えることは、仲間作りの第一歩、キャンプネームは、最初のアピールになります。ユニークで、すぐに覚えてもらえて、自分の特徴をよくあらわしたものなど、他にはないようなものにするとよいでしょう。(〇〇ちゃんなど、名前そのままは避けたほうがよいでしょう。)また、必ず名札をつけて過ごします。手作りなどで、特徴のあるものを用意することをお勧めします。

ただし、ここで忘れてはいけないことがあります。人間として互いに平等であるということと、自ら志願して所属している組織(この場合キャンプを実施するチームのこと)の決定権および指令系統とは、別ものであることです。人間としては平等ですが、事業上の決定と指令には整然と従うことが民主主義の基本的ルールです。

1-2-2-5. 社会的な責任

野外カウンセラー講座のフィールドであるこどものためのキャンプは、心豊かな少年少女が育ってほしいという願いのもと、多くの機関の支援を受けながら実施してきました。こども達の案内役である相談員にも社会的な期待が寄せられており、また責任を負います。

こどものためのキャンプは次のような特徴や特質をもっています。

- 他人のこどもの生命・人権・心を預かります。
- こどもたちが豊かな心を育むことを期待されています。
- 公益を目的とする法人が責任をもって実施する事業です。
- 多くの公共機関の協力により成り立っている事業です。

不幸な出来事や不祥事が起これば、当事者以外にもここにあげたすべての関係者に迷惑がかかります。それらのことを理解し、深く意識する必要があります。

ところで、これらの期待や責任は、このキャンプ特有のものではありません。またキャンプ事業だけが負うものでもありません。地球上のありとあらゆる社会事業が、それぞれ固有の期待と責任を追っています。

担当者はそれを引き受け、それらの責任を果たすことによって、事業を成立させています。このキャンプでは、そのような社会的期待と責任の内の一つを負っているのです。このキャンプにおいて、社会的期待や責任に responding いく体験をすることによって、さらに広く、「地球市民としての心構え」や「危機管理対応力」を磨いていくことができます。



1-2-2-5. カウンセラーの厳守事項

今日の世界は、あらゆる地位・職業の人々が人権侵害で他人に深刻な被害を与え、かつそれが毎日報道されるような社会となってきました。そうしたニュースが増えたことは残念なことですが、一方に、被害を表に出せる社会になり一歩前進したと、このことを前向きに捉える人々もいます。いずれにせよ各界でハラスメント防止対策が進行しています。

当財団では、主としてアメリカキャンプ協会の安全基準（ACA 規格）レベルに近い野外安全管理参考基準 ORS を開発しました。ここでは、これに基づいてカウンセラーの厳守事項を学びます。これまでの日本人は“平和ボケ”してスキだらけと指摘されてきましたが、このグローバルスタンダード的な ORS 行動規範を身につけることにより、治安の悪化が進んでいる現実社会で様々な被害と加害を回避するヒントを学ぶことができます。一つずつ確認していきましょう。

●キャンプ前

自動車での来村	相談員の車での来村をお断りしています。事故防止その他の理由のためです。
キャンセル	子どもたちの申し込みに応じて、適正な相談員の担当、組の組織を決定しています。突然のキャンセルは、全体の変更につながり、キャンプがパニックに陥ります。キャンセルの無いようにしてください。体調不良など、止むを得ない理由ができた場合は、ただちに連絡するようにしてください。

●キャンプ中

連絡・指令系統	数多くの他人の子ども命と人権とを、申込書のみで保護者からお預かりしている主催者の責任は重大です。早めの「はっ・ぼう・たい」すなわち「問題発見・報告相談・対策立案」を心がけてください。 現場での責任はディレクターに委ねられています。主催者やディレクターの指令を遵守してください。また、最終的な判断は理事長が行います。従ってください。
基本的人権の尊重	いじめ・体罰・虐待・性的いやがらせ・ワイ談・及びそれらに類することなど、人権を損なうハラスメント行為を固く禁じます。 大人同士も、子ども同士も、大人と子ども同士も、一対一閉鎖空間に居ることを禁じます ^{*1} 。21 世紀に生きる現代人は、ハラスメント発生条件下に入らないことが賢明な生き方として推奨されます。
子どもとのスキンシップ	子どもたちが相談員に親しみ始めると、特に低学年の子どもたちは、おんぶ・だっこ等、スキンシップを求めることが多くなります。しかし、身体の接触をとともなう行為は、いくら善意であっても、思わぬ誤解・苦情・トラブルに発展することがあります。そのため、異性とのスキンシップは絶対に行わないでください。同性の子どもに対するスキンシップや接触もしないでください。
禁酒 禁煙 禁ラブラブ	青少年の健全育成キャンプという観点から、キャンプ期間中の喫煙・飲酒・ラブラブなど“個人的嗜好行為”を禁止します。TPO をわきまませましょう。もちろん違法薬物等の使用など元より厳禁です。
異性・友人関係	子どもが主役のキャンプであり、相談員同士の交流のためのキャンプではありません。キャンプ中は子どもたちに目を向けて過ごしましょう。また、消灯・睡眠時間確保を徹底し、就寝時間後の夜ふかしを固くお断りします。

携帯電話・カメラ	<p>自然生活の中での素朴な生活を大切に、キャンプ生活を充実させていきたいと思っています。基本として、携帯電話の使用は禁止です。キャンプ期間中は、電源をOFFにし、ロッカーに預けて頂きます。当然、私用電話や、携帯電話の使用（アラーム・時計代わり・ライト代わりを含む）は一切できません。</p> <p>ただし、緊急連絡時・バス往復時・キャンプ地外での活動時などで、主催者やディレクターから依頼された場合のみ例外とします。その場合も最低限の使用を心がけていただきます。</p>
責任の完遂	<p>キャンプ中に様々な不安を感じることもあると思います。しかし、そういう時こそ一時の感情を克服して、大人としての社会的責任を全うするよう奮起しましょう。途中で投げ出すことのないようにしてください。何かあれば早めに「はっ・ほう・たい」です。</p> <p>なお、来村・退村については、必ず事前に事務局に相談し、了解を得てから行動してください。これは一年を通じてのルールです。</p>

●キャンプ終了後

キャンプ以外での交流	<p>キャンプ終了後、参加した子どもたちと個人的に会うなどの交流や通信を固くお断りします。事故等があった時にボランティア自身にも主催者にも道義的な責任が生じます。どうしても必要な場合は、必ず主催者に連絡して相談してください。</p> <p>キャンプ中子どもたちから、カウンセラーの住所を書いてほしいと言われることや、子どもの住所を伝えてくることがあります。上記の理由により上手に断ってください。正当な理由があり、必要がある時は、事務局を通じて行うことができますので、お問い合わせください。</p>
キャンプで使用する書類の管理	<p>キャンプ中、各種名簿・申込書を確認のため見ていただくことがあります。それらには重要な個人情報に記載されていますので、必ず主催者へ返却し、持ち帰らないようにしてください。</p>
名称の使用・活動内容の公表	<p>Web・ブログ・イベント等で、キャンプ名や主催者名あるいは後援者名などの名称無断使用や、その活動内容を無断で公表すること、無断でリンクをはることを固くお断りします。それら、個人情報と同様保護されるべき無体財産権です。必要がある場合は、必ず事務局の承諾を得てください。</p>
アカウントビリティ	<p>現代社会は説明責任が厳しく求められます。重大な不祥事が起きた場合、個人情報保護法の保護を受ける事項以外は公開されることが一般的です。責任ある行動を心がけましょう。</p>

※1 どうしても閉鎖的空間にならざるを得ない場合で、下記条件に限り例外とすることがあります。しかし、例外だから許されていると漫然と考えるべきではありません。監視下にあり、また望ましいことではないと常に意識しましょう。

- ①どこからでも誰からでも見える条件下にある場合
- ②部屋であれば、ドアを開放する場合、またはガラス張りドアの場合
- ③電子機器の設置により安全を観察・制御できる場合
- ④事前・事後直ちに責任者に報告することを条件に許可された場合
- ⑤事故・事件が発生し、緊急対応しなければならない場合

コラム：考えてみよう1

次の行動はどれも全て『NO!』です。なぜだろう？では、考えてみよう！

1. ボランティア仲間たちから「人手が足りないから助けて～」とSOSの連絡がありました。しょうがないので車で来てあげました。ヒーローは困った時にサッと登場するものさっ！
2. ずっと会えなかった友達から遊ぼうと誘われました。その日は、申し込んでいたキャンプの日と重なっていましたが、残念だけれどキャンプには参加しないことにしました。
- 3-1. せっかく子どもたちと山登りを計画したのに、ディレクターが天候を理由に許可をくれません。どうしても行かせてあげたいし、山の知識には自信があるので内緒で行こうと思います。ちゃんと私が責任を持って引率しますから！
- 3-2. 「頭が痛い」と泣いている子がいました。私の持っていた頭痛薬を適量飲ませてあげました。
- 4-1. ほ～んと、高学年の子ってエッチな話や下品な話が好きだな～。しつこく聞いてくるので説明してあげたら大ウケでした！話が盛り上がったおかげで、とても仲良くなることができましたよ！
- 4-2. いつも同じ子に悪口を言ったり、叩いたりする子がいます。そこで私が代わりにその子を叩き返しました。やっといけないことをしていたと分かったみたいで「ごめんね。もうやらない。」と約束してくれました。
5. みんなで遊んでいるうちに、「おんぶしてー」「だっこ～」「手つないで！」と周りに子どもたちがたくさん集まってきて、一緒に楽しく過ごすことができました。少し離れたところに、ポツンと1人の子がいたので、他の子にしたのと同じように、手をつないで誘いました。仲良くなりたかったのですが、手を振り払って逃げようとしています。嫌われてしまったみたいです。どうしてだろう…。
6. ミーティングも終わったので、持ってきたお酒をみんなで飲みました。相談員の親睦を深めるのは、やっぱり、これが一番ですね。子どもの前では我慢していたけれど、そっとキャンプ場の外へ出てタバコを吸いました。
- 7-1. 満天の星空にほのぼのと燃える炎・・・ああ、素敵な雰囲気！！気になるあの人をこっそり呼んで語り合いました！恋はいつだって突然なのよ～！
- 7-2. ミーティングが終わってからも、「さっき言っていた話だけど、こうしたらいいんじゃない？」「いや…」と話はずきません。納得がいくまでじっくり話をしていたら、夜が明けてきました。

- 8-1. ミーティング終了後、携帯電話を見たらメールが来ていました。子どもたちは見てないし、メールを読みすぐに返信しました。
- 8-2. 家族や友人に、キャンプでの活動を紹介したかったので、ケータイのカメラで子どもたちをとって帰りました。みんな楽しそうと言ってくれましたよ！
9. みんなは楽しそうだけど、私にはちょっと合わないみたい。夜、置き手紙をしてこっそりキャンプ場を逃げ出しました。
10. サイン帳に住所を書いてと頼まれたので書いたところ、家がとても近いようです。キャンプが終わってから、近くの公園で遊ぼうと言われたので、約束をしました。親御さんに遊ぶ時間と場所を連絡してから、その子と会いました。とても喜んでくれました。自分もとても楽しかったです。
11. キャンプから帰って来て、荷物を開けたら名簿を持って帰ってきてしまっていました。重要書類なので、すぐにシュレッダーにかけて処分しました。
12. 自分のブログ日記に、キャンプで楽しかったことや、子どもたちのこと、仲間の相談員のこと…感想や思ったことなど、みんなにも分かりやすく詳しく書きました。日記だし、親しい友達しか見てないだろうし、何を書いても私の勝手でしょ？
13. キャンプ中、あやまって子どもが大切にしていたペンを壊してしまいました。本人も気づいていなかったので、リュックの奥のほうにしまって黙って帰りました。バレないことを祈ろう・・・。

